


演習 1: DNA Center Assurance の使用例 (ここからデモを開始)

注: インスタント デモ システムを使用する前に、このガイドをよくお読みください。ガイド以外の操作を行った場合、問題が発生する可能性があります。ガイドで取り扱っていないシナリオおよび機能は一切サポートされていません。何らかの問題が発生した場合はブラウザのキャッシュをクリアし、いったんログオフしてから、再度ログインしてください。

注: DNA Center は Google Chrome のシークレット モードを使用すると自動でキャッシュのクリアが行われますのでお勧めです。

このデモでは、下記の特徴と、それらの効果について紹介します。

- a. ユーザ、デバイス、アプリケーションを含めた一元的な表示。
- b. 情報が関連付けられた分かりやすい表示によって、運用の効率化と問題解決への即応性。
- c. ネットワークの健全性 (Health Score) に関するトラブルシューティングを実施。
- d. クライアントの健全性に関する問題で、ユーザに技術的な知識がなく切り分けや確認を依頼できない課題に対して、オンボーディング機能を使いトラブルシューティングを実施。
- e. クライアントの健全性に関する問題のうち、ユーザがリソースにアクセスできない課題に対して、パストレース機能を使いトラブルシューティングを実施。

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>DNA Center は、デジタル インフラストラクチャの導入、ポリシー管理、アシュアランスをセンター管理する為のシステムです。</p> <p>多くの管理者は、ネットワークの現在の動作状態を視覚化するツールへアクセスはできますが、生産性やパフォーマンスへ影響を与えるユーザ、デバイス、アプリケーション、兆候について、見て取ることができていません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (キャッシュを確実に空にするために)シークレット モードでブラウザを開きます (Chrome が必要)。 dCloud にログインし、「Cisco DNA Center - Instant Demo」を検索し、[表示 (View)] をクリックします。 SDA インスタント デモ サーバに接続した後、amdemo1/C1sco12345 でログインします。 メインの DNA-C Web ページで [Assurance] をクリックします。 

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>ダッシュボードに、ネットワーク全体の健全性の一覧 (5)と、現在ネットワーク内で起こっている問題の上位 10 件の情報が表示されます。(6)</p> <p>健全性スコア (Health Scores) はネットワークとクライアントそれぞれに付けられています。DNA Center は、スイッチ、ルータ、ワイヤレス コントローラ、AP から情報を取得し、その情報を ISE と関連付けます。ISE はユーザとデバイスの双方に関するクライアント情報を提供しており、ネットワーク環境全体の健全性を迅速に確認する上で、このダッシュボードビューが非常に役立つようになります。</p> <p>これらの要素のいずれかに問題が検出されると、上位 10 件の問題の一覧が提示され、ユーザまたはネットワークのパフォーマンスに影響する恐れのある問題に素早く対処できます。</p>	<p>5. ネットワーク健全性ビュー:</p>  <p>6. 上位 10 件の問題</p> 
<p>ネットワーク管理システムは長年にわたり、ネットワーク デバイスの状態を収集し、syslog メッセージを使用することで、ネットワーク運用状況の分析を可能にしました。</p> <p>例として、こちらに表示されている問題について考えてみましょう。(7)</p>	<p>7. 上位 10 件の問題のうち [TenGigabitEthernet 1/0/1 がフラッピングしている (TenGigabitEthernet 1/0/1 is flapping)] を強調表示させます。</p> 

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>インターフェイスがフラッピングしていると表示されています。これは良くない状況です。各プロトコルでの経路情報の相違を常に再コンバージェンスする必要があることを考えると、ユーザ、トラフィック、ネットワークの安定性に影響が及ぶ可能性があります。</p> <p>従来、この問題にはどのように対処していたでしょうか。従来の対処法は、問題があることを警告で知らせるというものでした。それに対する典型的な対応では、SSH セッションを開き (Telnet はセキュリティの観点から非推奨)、問題点を確認します。ただし問題を解決するためには、問題の「識別」に使用したツールから、問題を「解決」するツールへ切り替える必要があります。フラッピングしているインターフェイスは問題の原因かもしれませんし、そうでないかもしれませんので、デバイスの IP アドレスを検索し、安定している別のインターフェイス経由で到達可能か確認し、コマンドを実行するなどの措置をとる必要があります。</p> <p>これに対し、シンプルにクリックするだけでインターフェイスのトラブルシューティングができるとしたら、非常に楽ではないでしょうか。(8)</p>	<p>8. [TenGigabitEthernet 1/0/1 がフラッピングしている (TenGigabitEthernet 1/0/1 is flapping)] の問題をクリックします。</p> <div data-bbox="743 426 1490 651" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p>Device</p> <p>TenGigabitEthernet1/0/1 is flapping</p> <p>Total occurrences: 378</p> </div>

ダイアログ

クリックにより、問題についてより詳しく見ることができ
ますが、さらに便利で興味深いのは、解決への推奨手
順が表示されることです。問題解決のための推奨手順
は、何千件もの類似問題のトラブルシューティングを通
して開発された TAC の手順をベースにしています。
TAC の深いナレッジベースを使ったこれらの推奨事項
は、トラブルシューティングする際、どこから切り分けを
始め、何をすべきかを判断する時間を大幅に削減して
くれます。

「それでもなお、トラブルシューティングは CLI でログを
確認したい方は、[すべてプレビュー (Preview All)] ボ
タン(9)を使用します(1回のクリックで CLI コマンドが
すべて表示されます)。

DNAC ですべての情報を一度に収集することもできま
すし、コマンドを順番に実行していくことも可能です
(10)。

Suggestion Action の結果を受け取り、CLI の出力を
確認して問題の原因を特定したら、すみやかに問題解
決へ取り掛かることができます。

ここまでは、デバイスの健全性に関する問題の使用例
について探ってきました。次に、ユーザベースの使用例
について見てみましょう。(11)

デモンストレーションの手順

9. [すべてプレビュー (Preview All)] ボタンをクリックします。



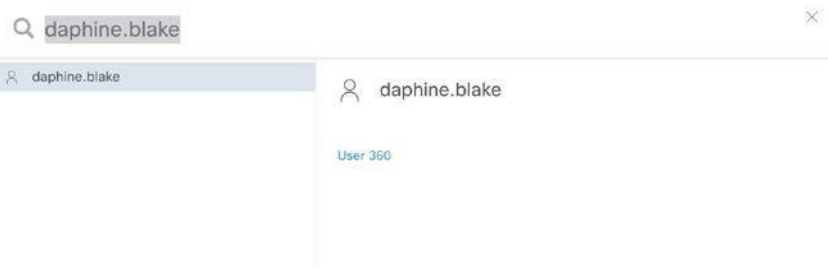

The screenshot shows a diagnostic page titled "TenGigabitEthernet1/0/1 is flapping". The status is "Open". The description is "Switch Port interfaceName - TenGigabitEthernet1/0/1 Flapped". Under "Suggested Actions (5)", there are five numbered steps with "Run" buttons next to each. At the top right, there are "Preview All" and "Run All" buttons.

10. [提示されたそれぞれの推奨手順を実行する (Run for each suggested step indicated)] をクリックします。

The screenshot shows the execution of suggested actions. The first action is "Verify that the port is error free" with a status of "Success". The second action is "Verify the interface errors" with a status of "Success", showing CLI output for "show interface TenGigabitEthernet1/0/1". The third action is "Verify the ethernet controller" with a status of "Success", showing CLI output for "show controller ethernet-controller". At the top right, there are "Preview All" and "Run All" buttons.

11. 右上にある [X] をクリックし閉じます。

The screenshot shows the diagnostic page for "TenGigabitEthernet1/0/1 is flapping". The status is "Open". The description is "Switch Port interfaceName - TenGigabitEthernet1/0/1 Flapped". At the top right, there is an "X" button to close the page.

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>ここまでの手順では、[全体的な健全性(Overall Health)] の画面のみ使用してきました。複数のタブや複数のツールを掘り下げることなく、ネットワークの問題をつきとめ、トラブルシュートし、迅速に解決することができました。それはすべてダッシュボードから実施してきました。</p> <p>では、典型的なユーザ中心の使用例を取り上げてみましょう。たとえば、ユーザから所有デバイスのうち 1 台がネットワークに接続できなくなり、サポートが必要だと連絡を受けたとします。</p> <p>このような問題の解決のために一般的に実施されるトラブルシューティング手順を考えてみましょう。</p> <p>まず、ユーザの名前、使用デバイス、接続が失われた場所あるいは接続できなかった場所について尋ねるでしょう。次いで、接続を試みた方法について尋ねます。ワイヤレスの場合は、接続先として試みた SSID や、正しいユーザ名とパスワードを使用していたかについても尋ねます。さらに、使用された IP アドレスなどについても尋ねるかもしれません。つまり、トラブルシューティングの作業をどこから始めるかという判断については、ユーザから提供されるデータに依存しているのです。ユーザが技術に精通していない場合、これが大きな問題となっており、問題の特定が遅れる可能性があります。</p> <p>DNAC を使えば、この作業が大幅に簡略化されます。その方法を見ていきましょう。このシナリオには、Daphine というユーザが登場します。Daphine から、「昨日ネットワークに接続できなかった」という連絡が入りました。では、そこから始めましょう。</p> <p>DNAC は Identity Services Engine に結び付けられているので、まず検索ツールを使用して Daphine を探します (12)。2 ~ 3 文字入力すると、検索ツールで名前がオートコンプリートされて、Daphine Blake が見つかります (13)。</p> <p>では、Daphine とその問題について、どのような情報を把握できるのか見ていきましょう。(14)(15)</p>	<p>12. 右上隅の [検索(Search)] ツール(虫めがねのアイコン)をクリックします。</p>  <p>13. 「Daph」を入力します。</p>  <p>14. [Daphine.Blake] を選択します。</p>  <p>15. [ユーザ 360(User 360)] をクリックします。</p> 

ダイアログ

[クライアント 360(Client 360)] では、Daphne Blake に関するデジタル ネットワーク関連情報をすべて確認できます(16)。

Daphne には 3 台のデバイスが登録されており、そのうち 1 台に問題があることが、すぐにわかります。IPAD が接続されていないようですが、他の 2 台のデバイスは問題なく接続されています。

また、Daphne がこれまでに経験した問題の一覧も表示されます(17)。これらの問題はコンテキストを踏まえて表示されます。つまり、調査対象のデバイス(この場合は IPAD)に関連する問題が表示されます。どうやら 2 つの問題があるようです。1 つは認証の問題で、もう 1 つはオンボーディングのタイムアウトの問題です。これらの問題について、すぐに調べることができます。

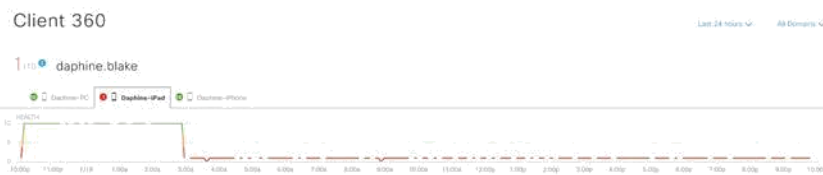
(18)さらに、Daphne が接続を試みた場所(Daphne のロケーション)についても正確に把握できます。オンボーディング プロセスの際に問題が生じたときのロケーションや、IPAD の通信先のデバイスについての情報が取得できます。また、認証サーバが使用可能だったこともわかります。これによって、問題の潜在的な原因の 1 つが自動的に排除されます。

最後に、Daphne の IPAD と、ネットワーク利用体験に関する詳細情報を確認します(19)。それには、Daphne の IP アドレス、MAC アドレス、接続を試みた際に使用された RF 帯域などが含まれます。

これで全体が把握できました。しかし、前日に Daphne が接続を試みた時点で、なにが起きていたのかを知る必要があります。解決が最も難しい問題とは、過去に起きたことを今になってから報告された場合です。まさにこのような場面を想定し、効果を発揮するのが、ネットワーク タイムトラベルです。その機能を見てみましょう。

デモンストレーションの手順

16. [クライアント 360(Client 360)] における Daphne Blake のデバイス表示:



17. [クライアント 360(Client 360)] における Daphne Blake の問題:



18. [クライアント 360(Client 360)] における Daphne Blake のオンボーディング:



19. [クライアント 360(Client 360)] における Daphne Blake の詳細:

▼ Detail Information

Device Info		RF	
Information		Connection Information	
User Name	daphne.blake	Band	2.4 GHz
Host Name	Daphne-IPad	Spatial Streams	---
MAC Address	6C:19:C0:BE:C9:17	Channel Width	20 MHz
IP Address	10.30.100.18	WMM	Unsupported
Device Type	Apple-iPad	U-APSD	Disabled
Operating System	---		
VLAN ID	100		

ダイアログ

Daphine の [クライアント 360(Client 360)] で最上部に戻ると、IPAD の過去 24 時間のタイムラインが表示されています。目盛を 3 時間単位から 7 日間単位に変更できますが、ここで重要なのは過去 24 時間です。タイムライン上にカーソルを合わせると(20)、問題が発生する前の Daphine の IPAD は、健全性スコアが満点でワイヤレス接続も強い良好な状態だったことが確認できます。

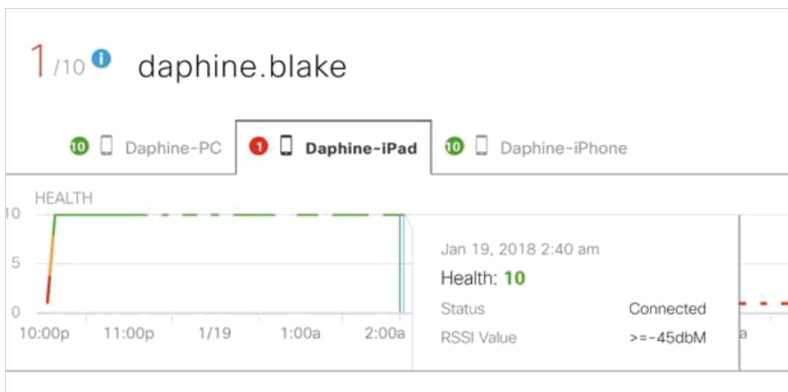
さらにタイムラインを探っていくと、ある時点(デモの時間によって、この「時点」はそれぞれ異なります)で健全性スコアが 1 に下がったのがわかります。Daphine はこの時点で未接続でした。(21)

タイムラインを探り続けると、これらの問題がやはりコンテキストと関わったものであることに気づきます。つまり、問題は調査対象のタイムラインに関連し、その推移に応じて表れてきているのです。Assurance 内の分析エンジンによって見つかった問題を見てみると(22)、認証サーバが Daphine を拒否したために SSID LA-Topsecret3 に接続できなかったことがわかります。また、SSID LA-Corporate3 への接続に際し、RF の問題に起因する別の問題もありました。

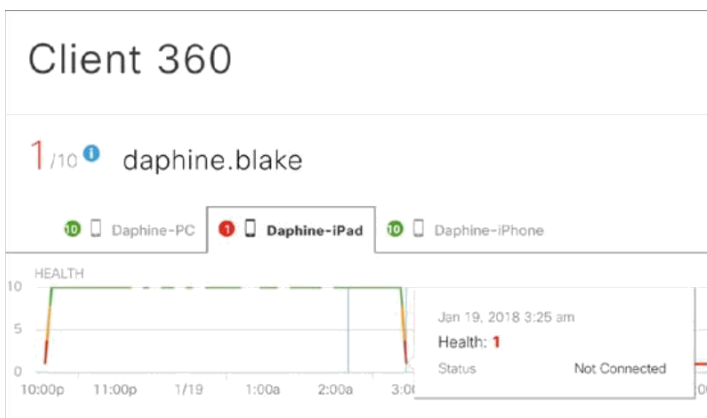
認証サーバは稼動しており使用可能でした。なぜ Daphine は拒否されたのでしょうか。(22a)

デモンストレーションの手順

20. 健全性エリアにカーソルを合わせます。



21. 健全性が 1 に下がった場所にカーソルを移動し、クリックします。



22. [ワイヤレスクライアントが接続に失敗した(Wireless client failed to connect)] の問題を確認します。

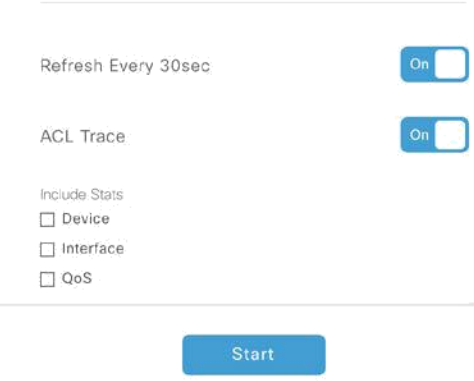


a. [ワイヤレスクライアントが接続に失敗した(Wireless client failed to connect)] の問題をクリックします。



ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>トラブルシューティング診断ポップアウト ボックスに、問題の詳細と、取るべき対応案が示されます。(23)</p> <p>Daphine の IPAD は、AAA サーバによって拒否されていました。Daphine は、サンタモニカ(レベル 1)の SSID LA-Topsecret3 への接続を試みていたのですが(ポップアウトの説明を参照)、影響を受けていたクライアントは Daphine の IPAD だけです。</p> <p>つまり、この問題を解決するには SSID が手がかりとなる可能性があります。Daphine の IPAD では、「Topsecret3」SSID が選択されていました。また、前に指摘したように、タイムアウトの問題により、IPAD が LA-Corporate 3 にうまく接続できていません。</p> <p>ここで収集したデータを基に、Daphine が Topsecret3 ワイヤレス ネットワークへのアクセス権限を持っているかどうかを確認できます。Assurance からは RF の問題が報告されており、Daphine の IPAD が LA-Corporate ネットワークに接続できなかったのは、アクセス権を持っていない Topsecret3 ネットワークにアクセスしようとしたためである可能性が高いと考えられます。</p> <p>このように、Assurance のプロセスを活用すれば、Daphine 本人に何の質問もすることなく、大量のデータを収集できるのです。つまりエンド ユーザからではなく、ネットワークから情報を把握できるのです。Daphine はネットワークの専門家ではありませんし、そうである必要もありません。ここでは 2 つの問題を特定し、生じた内容について十分に理解できました。修繕手順の提案に従い続ければ、この問題を迅速に解決できるでしょう。</p> <p>このようなプロセスと従来からあるヘルプデスクのサポートコールとの違いについて考えてみましょう。Assurance が活用されることで、以前に使用されていた質問/回答による方法と比べると、ユーザにとってはフラストレーションがはるかに軽減され、ネットワークオペレータにとっては、状況がより直感的に把握できるようになります。</p>	<h3>23. ポップアウト ダイアログ ボックス</h3> <p>Wireless client failed to connect (SSID: LA-Topsecret3, AP: LA2-AP1815-33, Band: 2.4 GHz) - AAA Server Rejected Client</p> <p>Status: Open</p> <p>Last Occurred: Jun 24, 2018 1:13 PM</p> <p>Description This client failed to complete authentication during onboarding because the Unknown AAA server rejected the client. This client was connecting to 'LA-Topsecret3' SSID on 2.4 GHz radio on 'LA2-AP1815-33' AP in Global/USA/Santa Monica/Level 1. The AP was connected to 'LA1-WLC5520-3' WLC.</p> <p>Impact</p> <ul style="list-style-type: none"> Location: 1 Building Client: 1 Wireless Client <p>Client Authentication Attempts (WLC: LA1-WLC5520-3) Jun 20, 2018 1:13 am to Jun 20, 2018 1:13 am</p> <p>Legend: Failed Attempts - AAA Server Rejected Client, Total Attempts</p> <p>Investigate Check... < • • > Investigated Client...</p>

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>Daphine から再度連絡があり、「今日はさらに大きな問題が発生した」と伝えられます。現在の問題についてどのように支援できるか見てみましょう。(24)</p>	<p>24. 右上隅の [X] をクリックしてポップアウト ボックスを閉じます。</p> 
<p>Daphine によると、PC で印刷ができなくなったとのこと。ただし、他はすべて正常に機能しているそうです。Daphine の PC を見てみましょう。(25)</p> <p>Daphine の PC が Linux ワークステーションであること、使用場所はサンタモニカオフィスの1階であること、IP アドレスが 10.30.100.10 であることがわかります。また、このワークステーションには既知の問題がないこともすぐにわかります。</p> <p>Daphine は、「すべて正常に見えるが、1 階にあるネットワーク プリンタから印刷できない」と伝えます。</p> <p>多くのネットワーク オペレータにとって、この種の問題は追跡が非常に困難です。何から始めるべきでしょうか。プリンタ、それともワークステーションでしょうか。ひとつの方法として、Daphine に対して、コマンド ウィンドウを開いてワークステーションに ping を実行するよう依頼できます。しかし、Daphine が Linux コマンドラインに精通しておらず、UI しか使えない場合はどうなるでしょうか。そもそも、ユーザの手を煩わす必要があるのでしょうか。</p> <p>では、Daphine による操作が一切ない状態で解決できるか見てみましょう。</p>	<p>25. ユーザ 360 のメイン ページの [daphine.blake] から、[Daphine-PC] をクリックします。</p>  <p>Issues (0)</p>

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>まずオンボーディングのページを開き、PC が接続されていることを確認します。これまでにエラーは観察されていません。ですが、適切なネットワークに接続されているかどうか確認しましょう。(26)</p> <p>Daphine は、社内ワイヤレス ネットワーク(前のケース参照)に接続され、LA1-AP2802-38 を経由し、LA1-WLC5520-3 に接続しています。問題はなさそうです。</p> <p>Daphine の PC とプリンタは、実際にどのような経路でつながっているのでしょうか。Daphine による操作なしで情報を入手できるでしょうか。そのために、Path Trace ツールを使用します。</p> <p>Path Trace は、2 点間に存在する問題の場所を特定するのに役立つもので、ここで使用するには最適なツールです。新規パストレースを実行します(27)。</p>	<p>26. オンボーディングが正しいことを確認します。</p>  <p>27. [新規パストレースを実行(Run New Path Trace)] をクリックします。</p> 
<p>新しいポップアウト ウィンドウに、Path Trace ツールが表示されます。(28)</p> <p>[接続元(Source)] には Daphine の PC の情報が自動的に読み込まれています。このツールもやはり、Assurance で見られたようなコンテキストを踏まえたツールです。</p> <p>オプションの選択によっては、Path Trace によって、かなりの量の情報を収集できます。たとえば、チェック対象として特定のプロトコルを選択するのはもちろんのこと、変更の影響を監視したい場合に便利な自動更新を有効にすることもできます。また、ACL との適合性や検証、デバイス、インターフェイス、QoS パラメータに関するその他の統計情報を確認することも可能です。</p>	<p>28. Path Trace ツール画面:</p> 

ダイアログ	デモンストレーションの手順
<p>今回の例では、30 秒ごとのトレース更新や ACL Trace (29)といったデフォルト設定をそのまま使用します。</p> <p>接続元はすでに読み込み済みなので、接続先を選択しましょう。今回は、Daphine が使おうとしているプリンタ(192.100.100.22)が、偶然にも接続先ドロップダウン ボックスの先頭に表示されています(30)。</p>	<p>29. Path Trace のオプション</p>  <p>30. 最初の接続先エントリ [192.100.100.22] を選択します。</p> <p>Source Host/IP 10.30.100.10</p> <p>Port (optional)</p> <p>Destination Host/IP 192.100.100.22</p> 
<p>接続先の設定とオプションの確認が終わったので、Path Trace を開始します(31)。</p>	<p>31. [Start(開始)] をクリックします。</p> 

ダイアログ

トレースが完了すると、接続元と接続先間のフルトポロジパスが表示されます(32)。

このトポロジ図は、実際には何を表しているのでしょうか。またそれは、Daphine のプリンタの問題にどのように役立つのでしょうか。

図を見ると、Daphine の PC が AP に接続し、そこから CAPWAP トンネル経由で WLC にトラフィックが転送されているのがわかります。もし Daphine に自身のワークステーションから「PING」を送信するように依頼していたら、アンダーレイネットワークに関する情報の多くが見逃されていたと思われます。CAPWAP トンネルはアンダーレイインフラをカプセル化で見えなくします。

トラフィックは、WLC を通過した後、2 つのスイッチを介してプリンタに到達しています。しかし、Path Trace が問題を見つけました。最後のスイッチで、ACL の問題が発生しています。これが印刷できない問題の原因でしょうか。

出カインターフェイスをチェックしてみると(33)、それが TenGig インターフェイスであり、かつ VLAN 120 が使用されていることがわかります。

More Details をクリックしてみましょう(33a)。

デモンストレーションの手順

32. Path Trace の結果

Path Trace

To find the location of an issue, perform a path trace between two nodes in your network – a source device and a destination device.

10.30.100.10 (port: not specified) → 192.100.100.22 (port: not specified) [protocol: not specified] Feb 6, 2018 5:52 pm



Run New Path Trace

33. [LA1-3850-CSW-2] で右ボタンをクリックします。

- a. [詳細の表示 (More Details)] をクリックします。

Egress	
Used VLAN	120
Input Queue Drops	N/A
Output Drops	N/A

More Details

ダイアログ	デモンストレーションの手順																																																						
<p>(34)これで、この出力インターフェイスの詳細情報がわかりました。ここでは VLAN 120 が使用されており、「120」という名前の ACL があります。Daphine の PC を送信元として、ACL 120 で拒否アクションが生じています。具体的には、エントリ ナンバー 40 の Deny IP ANY ANY により拒否されています。</p> <p>まさにこれが問題の原因です。ここからログを監査して、最近の変更の有無を確認し、この ACL を入力した人物およびその理由を追跡できます。さしあたり、問題の原因がわかったので、すぐに修正可能である旨を Daphine に知らせることができます。</p> <p>この種の ACL の問題は、ネットワーク機器に直接アクセスして ACL を変更し、どのエントリが該当するかのログを取らない限り、判別はほぼ不可能です。トラフィックの中断やネットワークへの不要なリスクを生じさせる作業になります。言うまでもなく、DNA Center Assurance のこの機能があるだけでも、単純なネットワーク監視ツールよりもはるかに優位性があります。</p>	<p>34. 出力インターフェイス詳細のポップアウト</p> <div data-bbox="716 363 1409 1703"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> Jan 17, 2018 8:56 pm × </div> <h2 style="text-align: center; margin-top: 10px;">TenGigabitEthernet1/0/1</h2> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr><td>Input Queue Drops</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Count</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Rate</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Output Drop</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Output Queue Count</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Output Rate</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Max Depth</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Flushes</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Operational status</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>ACL Name</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>ACL Result</td><td>NONE</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr><td colspan="2">Vlan120</td></tr> <tr><td>Used VLAN</td><td>120</td></tr> <tr><td>Admin status</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Drops</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Count</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Rate</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Output Drop</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Output Queue Count</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Output Rate</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Max Depth</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Input Queue Flushes</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>Operational status</td><td>N/A</td></tr> <tr><td>ACL Name</td><td>120</td></tr> <tr><td>ACL Result</td><td>DENY</td></tr> <tr><td>Matching ACE Rule</td><td>40 deny ip any any</td></tr> <tr><td>Matching ACE Result</td><td>DENY</td></tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; display: inline-block;">Feedback</div> </div> </div> </div>	Input Queue Drops	N/A	Input Queue Count	N/A	Input Rate	N/A	Output Drop	N/A	Output Queue Count	N/A	Output Rate	N/A	Input Queue Max Depth	N/A	Input Queue Flushes	N/A	Operational status	N/A	ACL Name	N/A	ACL Result	NONE	Vlan120		Used VLAN	120	Admin status	N/A	Input Queue Drops	N/A	Input Queue Count	N/A	Input Rate	N/A	Output Drop	N/A	Output Queue Count	N/A	Output Rate	N/A	Input Queue Max Depth	N/A	Input Queue Flushes	N/A	Operational status	N/A	ACL Name	120	ACL Result	DENY	Matching ACE Rule	40 deny ip any any	Matching ACE Result	DENY
Input Queue Drops	N/A																																																						
Input Queue Count	N/A																																																						
Input Rate	N/A																																																						
Output Drop	N/A																																																						
Output Queue Count	N/A																																																						
Output Rate	N/A																																																						
Input Queue Max Depth	N/A																																																						
Input Queue Flushes	N/A																																																						
Operational status	N/A																																																						
ACL Name	N/A																																																						
ACL Result	NONE																																																						
Vlan120																																																							
Used VLAN	120																																																						
Admin status	N/A																																																						
Input Queue Drops	N/A																																																						
Input Queue Count	N/A																																																						
Input Rate	N/A																																																						
Output Drop	N/A																																																						
Output Queue Count	N/A																																																						
Output Rate	N/A																																																						
Input Queue Max Depth	N/A																																																						
Input Queue Flushes	N/A																																																						
Operational status	N/A																																																						
ACL Name	120																																																						
ACL Result	DENY																																																						
Matching ACE Rule	40 deny ip any any																																																						
Matching ACE Result	DENY																																																						

まとめ

これで、DNA Center Assurance の使用例のデモは終了です。このデモでは、DNA Center Assurance が提供する下記の特徴についてデモンストレーションすることができました。

- a. ユーザ、デバイス、アプリケーションを含む一元表示
- b. 情報が関連付けられた分かりやすい表示によって、運用の効率化と問題解決への即応性
- c. DNA Center の管理画面に採用されているインサイト(管理者目線で知りたい情報を分かりやすく表示)とアナリティクス(分析)によって、ネットワークの健全性に対する問題/クライアント健全性に対するオンボーディングの問題/クライアント健全性に対するリソース アクセスの問題について、迅速に回答し、トラブルシューティングを実施

©2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2018年5月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先